

建設工業新聞（平成31年1月25日付）

女性技術者のつどい 官民40人が語り合う

日本技術士会・県測協

県内の建設コンサルタンとと国交省や県に勤務する40人の女性技術者が23日に倉吉市内で交流した。日本技術士会県支部（伊藤徹支部長）と県測量設計業協会（大野木昭夫会長）が主催した初めての「女性技術者のつどい」で、共有する問題や活躍の場の拡大など幅広い話



40人が参加した女性技術者のつどい（倉吉市内）

題について語り合った。ホテルセントパレス倉吉であった「つどい」には、建設コンサルタんと県土地改良事業団体連合会の技術者25人、国交省鳥取、倉吉河川国道事務

所、県土整備部などに勤務する技術者15人が参加したほか、来賓として県女性活躍推進課の藤田博美課長、鳥取大学工学部の星川淑子教授が来賓として駆け付けた。最初に伊藤支部長が「建設コンサルタントで働く女性技術者も増えてきたが、まだまだ少ない。男女問わずに個性を尊重し、素晴らしい「ハロー」を奏でられる世界であるべき。将来的には、高校生や大学生なども交えた場を作りたい。大野木会長は「協会としても人を育てることに力を入れている。みなさんの話を聞きながら、我々の業界が働きやすい環境にあるのかよく考えたい」とあいさつした。

講演では、藤田博美課長が「働きやすい環境が整えば、男女問わずに活躍できる」と自身の経験を踏まえて語りかけたほか、伊藤支部長も「男女共同参画に向けた女性技術者の活用」。星川教授も「学生はもちろんだが、保護者も仕事の中身を知らない。PRが欠けている。技術者の目や手は男女関係ないので、しなやかさ、したたかさ、しぶとさを最大限発揮すべき「ハロー」を送った。

フリートークの場では「なぜこの業界には女性技術者が増えないのか」などをテーマに思いを語った。参加者からは「土木の仕事は工事を中心で、測量や設計は学生に見えない業務の内容が伝わってこなかった」「忙しくて大変なイメージがあった」「育休後に復帰できるのか」「災害発生時には大変だった」などの意見が出たほか、女性技術者を増やす方策として「現場見学会は工業系の高校だけではなく、小学生や中学生にも拡大」「女性だからといって配慮されすぎると、技術の向上につながらない」「災害時の対応をドキュメント方式で子供たちに伝えたい」など多くの話題で盛り上がった。

この日の参加者からは「また、集まって話したい」という声が多く出ていた。

新聞記事

日本海新聞（平成31年1月28日付）

女性技術者増やすには

倉吉、人材確保へ意見交流



建設業界の女性の働き方について意見交換する参加者ら＝23日、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉

女共同参画の取り組みについて紹介した。

この後、各テーブルごとに「なぜ建設業界に女性技術者が増えないのか」をテーマに意見交換。参加者からは「ぎつい、汚れるなどのイメージが先行している」「情報が少なく、測量技術など仕事内容が伝わりにくい」などの声が上がった。

また「専門学校だけでなく門戸を広げ、小型無人機ドローンなどの最新機器に興味を持ってもらう」「手に職が付き、一生の仕事になることをアピールする」など解決策についても案が出され、将来への展望を話し合った。（田中美千留）

建設コンサルタントで働く女性たちが交流を深める「女性技術者のつどい」が23日、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉で開かれた。女性技術者が増えない理由や解決策などについて、ざつとばらんな雰囲気意見交換をした。

全国的に少ない女性技術者や技術士の育成を目的に、日本技術士会鳥取県支部と真測量設計業協会が実施した。

建設コンサルタントで働く女性たちが交流を深める「女性技術者のつどい」が23日、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉で開かれた。女性技術者が増えない理由や解決策などについて、ざつとばらんな雰囲気意見交換をした。